



# ゆたかっこ

学校だより 10月号  
豊見城市立ゆたか小学校  
豊見城市字豊見城 601 番地 1  
TEL850-6639 FAX850-3940  
校長 宮平 やすみ

## 秋ですね！朝の表情もさわやかに！

天高く馬肥ゆる秋！空が高く感じる季節。朝夕吹く風が涼しく感じられる季節になってきました。朝、過ごしやすからでしょうか。最近「てくてく登校」の子どもが増えています。うっすらとこいた汗に涼しい風が心地いいな・・・と感じることもまた子どもの感性を育む大切な体験のひとつですね。

楽しみにしていた様々な校外体験学習が終わり、そのまとめをしながら楽しかった思い出をもう一度振り返っている子ども達。友達とのつながりがだんだんと深まる時期でもあります。各学級でも、個から集団へ発展させる学習や遊びの工夫を意識していきます。そろそろ、1学期のまとめに入る時期でもあります。一人一人の頑張りや成長に目を向け、次の目標に向かっていけるように共に励ましていきましょう。

## 笑顔で、元気に、てくてく登校！(\*^o^\*)!



おはよ～  
カニさんも  
登校？



きょうだい仲よく登校。  
友だちと楽しいおしゃべり。  
ときどきドッキリも。  
朝もハッピーがいっぱいです。

### 6年2組友子先生、ありがとうございました！

4月から、6年2組の担任としていっしょに過ごしてきた棚原友子先生が、半年の任期を終えることになりました。10月1日からは、県立総合教育センターの研修を終えた玉城一志先生が、担任となりますのでお知らせします。友子先生は、12月に出産を控えています。大好きな子ども達と修学旅行も楽しく過ごしました。元気な赤ちゃんの誕生を願っています。

引き続き玉城一志先生も頑張りますのでよろしくお願ひします。

### ナイスショット (清掃時間)



ゴソゴソ！  
ゆかのよごれを  
おとすぞ～

2年生

# 子どもの自由な想像をはたらかせて「これは、りんごかもしれない」

6年生の掲示でおもしろい学習カードを発見！子どもが自由に発想し表現する機会を取り入れると、考えることはもっと楽しくなりそう！そう思わせてくれる6年生の作品をいくつか紹介します。（おもしろい発想がいっぱい！）

このりんごは  
サザエさんちのタ  
マガかかっている **かもしれない**

なまえ 前田 悠悟 12 さい

このりんごは  
こびとの家 **かもしれない**

なまえ 宮城 彩音 11 さい

このりんごは  
ぼくにしか  
見えないの **かもしれない**

なまえ 村上 山人 12 さい



クラブ活動（4～6年生）が終わります。教えに来てくださったボランティア講師のみなさん、ありがとうございました。  
【三線、琉球舞踊、書道、折り紙、エイサー】



## 子育ての部屋「耳ぐすい（耳薬）」

このコーナーでは、様々な教育書の中から子育てのヒントになりそうな情報を一部分ですが紹介します。私が勝手に選んだ情報ですので、参考にするかどうかは皆様の判断にお任せします。ちょっとしたヒント「耳ぐすい」になれればな～と思います。

親が子どもをか弱いものであるかのように扱えば、本人も「私は困難に対処できない」と信じたまま大人になる。だが、子どもが「私は強いから、イヤな気分にも対処できる」と思えるように親が支えてやれば、1人で対処する力がつく。さまざまな感情を抱くのは当たり前だ、と子どもは知る必要がある。だから、悪いことが起こったら悲しんでいいのだ。実のところ、悲しむことは、傷を癒やすプロセスの一部だ。だからといって、ずっと不機嫌なままでいる必要はない。子どもでも、自分の感情の手綱（たづな）を握れる。朝から虫の居所が悪くても、学校でイヤなことがあっても、気分が晴れるような選択はできる。

とはいえ、人は気分のままに行動したくなるものだ。悲しいときは、家で1人、じっとしていたくなる。でもそれでは悲しい気分がふくらむだけ。気分と裏腹な行動を取ることが、感情を変えてくれる。仲間と出かければ元気が出るし、散歩に出かけたら、気分が良くなるだろう。大事なことは、子どもが感情に対処する健全な方法を見つけられるよう導くこと。導いてやらないと、子どもは気分をよくするために、あまり健全ではない方法を見つけてしまうかもしれない。悲しんでいる子は、自分をなだめようと食べ物に走ることがあるし、寂しいティーンエイジャーは構ってほしくてオンラインでの出会いを求めるかもしれない。

わが子に、自分をなだめ、落ち着かせ、元気づけてくれる、健全な方法をあらかじめ教えておこう。ただし、心に留めておいてほしい。誰もが同じもので元気になるわけじゃない。少し外で遊べば落ち着く子もいれば、静かにぬり絵をするのが何より効く子もいる。・・・〈中略〉・・・

楽しい気分のときにしたくなる、と子どもが言ったことをすべて書き留めよう。そして嫌なときに、そのリストのどれかをすすめるといい。「悲しいときや寂しいときに、このどれかをやると気分が晴れるよ」と子どもに教えてあげてほしい。また、「気分を高めるキット」をつくるのも一案だ。小さな箱を用意して、楽しい気分になりたいことを思い出させてくれるアイテム—ジョークブックや画材など—を詰め込もう。じいじの面白い写真など、子どもを笑顔にしてくれるものを入れてもいい。練習すれば、子どもは、何をすれば一番元気になれるかがわかってきて、自分でやれるようになるだろう。……………

「メンタルが強い親かやめた13の習慣」（エイミー・モーリン） 講談社